



NEWS!  
2009.1月号

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク 〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20 大阪 NPO プラザ119号  
郵便振替 00920-8-154437 年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)  
TEL & FAX: 06-6462-2775 携帯: 090-8989-5182(代表山口) <http://www.geocities.jp/gconosaka/> [gcon-osaka@onp.or.jp](mailto:gcon-osaka@onp.or.jp)

## 大阪市のごみ減量 20% 目標を達成していくために

～貴重な資源、文化の伝道者(物)として～

昨年は、古紙偽造にはじまるという、とても胸の痛む幕開けでした。何でも焼却処分をしていた大阪市内のごみたち。“もったいない”の代表格が「紙ごみ」です。資源として再利用できるものは、その仕事に関わる人たちと話し合いながら試行錯誤を繰り返し進めてきたのが、「紙の回収」でした。古紙回収は多くの地域では当たり前なのに、大阪市内では市の方針として、各地域の自治会や子ども会等で地域の事業者と調整して自主的な回収をすすめ奨励金をだしていることを前提としているため、昨今の地域のつながりの希薄さから実施しているところはごく稀です。だから大阪市内のごみ組成の 40% が紙類で再生可能な資源なのです。

出版社に勤務の方から大阪市内の学校では、学校から出た紙や図書類が一般ごみに出され燃やされている。紙はリサイクルの優等生、なんとしてももう一度紙に命を吹き込みたいと、「学校紙もったいないやんかプロジェクト」を立ち上げ、関西古紙原料事業組合の協力で、回収作業を開始して 3 年、参加校は全体の 30% 未満で推移しています。NPO と回収事業者との協働事業として、それを推奨する環境省からは注目されています。裾野を広げるには学校にその仕組みをつくることとして、大阪市と教育委員会へ実績を基にした「提言書」を昨年 5 月に提出しました。

その後、古紙リサイクル協会が地球環境基金の助成を受けて開催された、「大阪市のごみを 20% 減量するワークショップ」に参加し、他の環境団体やごみ減量推進委員、環境事業局の方々とワークショップを行いました。また同基金で、学校へのアンケートも実施しました。すでに数回にわたる会合をもち提案書を作成し今月末には、平松市長への手渡をしていくメドとなっています。

ごみを見詰めれば、多くは資源に再利用されるものがとても多いことに気がきます。そしてここまで包装しなくてもというのも多くあります。グリーンコンシューマーとして、シンプルな生活の中から質の高い生活をつくっていくために、皆様と双方向の意見交換で、デパート、スーパー、コンビニ等販売店の方と製造業や物流の方との話しの場をつくっていきませんか。緑の消費者が緑豊かな地球環境を育てていきましょう。

牛のごとく、ゆっくりと足元を確かめながら歩いていきましょう。

